

# 貿易投資相談ニュース

2025年10月 Vol.287

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町3-4

<https://www.tamashin.jp/>



## 今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【たましん駐在員レポート】～マレーシアを訪問して～



## 世界の主要ニュース

### 米国向け郵便物の取り扱い停止の動き広がる（米国）

米国では少額貨物の輸入に対する非課税基準額（デミニミス）ルールの適用が8月29日以降に通関する貨物から停止となりました。今回の停止により同ルールの下で免税対象とされていた800ドル以下の少額貨物に対しても関税がかかります。それに伴い、各国運送・郵便事業者などが実施すべき手続きが不明確で、運用が極めて困難な状況にあり、日本を含む30カ国以上の郵便事業当局が米国向け郵便物の一時停止を発表しました。日本郵便については、「個人間の贈答品で価格が100ドルを超

えるもの」「消費を目的とする販売品」を包含する米国向けの郵便物について、引き受けを一時停止しました。これにより、主に越境ECを通じた日本から米国への配送手段は、国際宅配便（クーリエ）に限られることとなりました。なお、国際宅配便で米国に輸入通関される場合、電子申請システム（ACE）を利用した輸入申告書類の提出やHTSコードの選定等、一般貨物と同様の輸入手続きが必要であり、米国の関税政策の動向は今後も注視が必要です。

### 2024年の中国企業の対外直接投資、2年連続増加（中国）

中国の商務部、国家統計局、国家外貨管理局は9月8日、「2024年中国対外直接投資統計公報」を発表しました。同報によると、中国の2024年の対外直接投資額は前年比8.4%増加の1,922億ドルで、2年連続の増加となりました。国連貿易開発会議（UNCTAD）の「2025世界投資報告書」によると、2024年の中国の対外直接投資額は米国、日本に次いで世界第3位となりました。また、世界全体の対外直接投資額に占める割合は11.9%で、前年より0.5ポイント増加となりました。地域

別では、対外直接投資額の約8割がアジア向けで、前年比8.5%増加となりました。うちASEANへの投資が36.8%増加と堅調に伸びており、過去最高額を記録しています。中南米、欧州向けもそれぞれ15.4%増加、25.3%増加となりました。一方、北米向けは22.6%減少と大幅に減少しており、米国向けは4.1%減少となりました。中国国内の景気が低迷する一方で、中国企業の対外直接投資額は増加しており世界各国へ与える影響は引き続き大きくなっています。

### AI導入で世界貿易額は2040年までに約40%上昇予測

WTOは9月17日、年次報告書「世界貿易報告2025」を発表し、人工知能（AI）が世界貿易と経済成長に与える影響を多角的に分析しています。AIの導入によって、2040年までに世界の財・サービス貿易額は34～37%増加、特にデジタルサービス貿易額は42%増加する予測です。また同年までに、世界全体のGDPは12～13%増加すると見込まれています。AIツールは、通関手続きの自動化、言語障壁の低減などを通

じて貿易コストを削減し、中小企業のグローバル市場への参入拡大に貢献しています。また、デジタルインフラや教育への投資拡充、AI関連規制に関する国際協調も不可欠とされています。WTOは、加盟国間の対話を促進し、AI関連のルール整備や能力構築支援を進めています。特に、途上国や中小企業がAIの恩恵を享受できるように技術移転や研修プログラムを提供し、包摂的な成長を実現することを目指しています。

## たましん公表外国為替相場

（2025年8月1日～2025年9月4日、TTSレート、単位：円）

日付	8/1	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/12	8/13	8/14	8/15	8/18	8/19	8/20
米ドル	151.79	148.64	147.98	148.63	148.67	148.26	149.46	148.84	147.69	148.66	148.50	148.90	148.73
ユーロ	173.71	172.16	171.59	172.37	173.53	173.33	173.93	174.15	173.31	173.49	174.07	173.89	173.40
日付	8/21	8/22	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	9/1	9/2	9/3	9/4	最安値	最高値
米ドル	148.50	149.53	148.45	148.16	148.55	148.42	147.92	148.28	148.34	149.79	149.02	147.69	151.79
ユーロ	173.17	173.95	173.97	172.90	173.18	173.12	172.99	173.75	173.93	174.61	174.10	171.59	174.61

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。（[https://www.web-tamashin.jp/ex\\_rate/](https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/)）



# 【たましん駐在員レポート】

## ～マレーシアを訪問して～

たましんでは2024年に海外トレーニーを行いました。第8弾となる今回はマレーシアの基本情報や最新の経済情勢等の調査を行い、筆者の視点でご紹介いたします。



### 基本情報

マレーシアの面積は約 33 万km<sup>2</sup>（日本の約 0.9 倍）、人口は約 3,350 万人、首都はクアラルンプールで東南アジア特有の熱帯性気候の国として知られています。自国通貨はリンギット、公用語はマレー語ですが、ビジネスにおいては中国語や英語が使用されています。宗教についてはイスラム教が中心で、国民の約 6 割がムスリムです。

### マレーシアの特徴

マレーシアの特徴として、多民族国家であるという点が挙げられます。マレー系、中国系、インド系などの民族が共存し、言語、宗教など多様性に富んだ国であり、異文化に対しても理解度が高いという特徴があります。

一方でマレーシアは国家として独立した当時、先住民のマレー系住民を優遇する政策を掲げており、これに対し華僑（中国系移民）が反発しました。その後も和解の見通しが立たず、民族対立が続いた結果、1965 年に華僑の多かったシンガポールはマレーシアから独立・分断することになりました。

現在は多民族国家として知られていますが、上記のような歴史的背景があるのもマレーシアの特徴といえます。

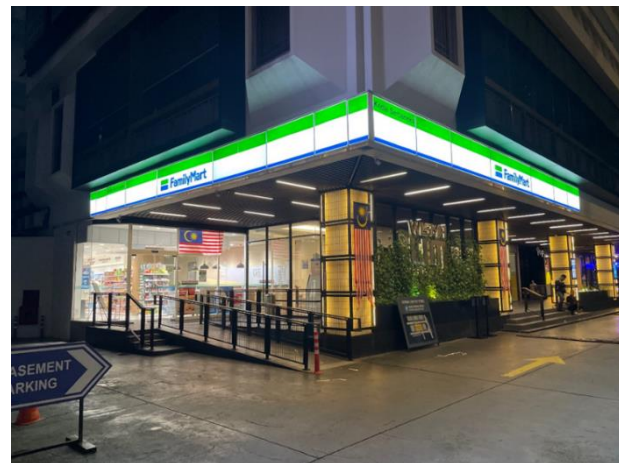
### 最近の経済について

マレーシアは ASEAN の中で安定した成長をつづける国のひとつです。特に製造業、石油・ガス、観光業が主要産業であり、最近では IT やデジタル経済分野にも注力しています。2024 年度の実質 GDP 成長率は 5.1% と比較的堅調に推移しています。要因として、雇用環境の改善や所得増を背景とした個人消費が好調な点や製造業を中心とした輸出が順調であった点などが挙げられます。

2025 年度の見通しとして、GDP の約 6 割を占める内需が引き続き牽引しプラス成長が見込まれている一方で、米国の関税政策による影響の不透明感もあります。特に対米輸出の約三分之一を占める半導体は追加関税の対象となる可能性もあり、今後の動向は注目されています。

日系企業については約 1,600 社が進出しており、現地ではファミリーマートが成功しています。約 460 店舗ほど展開しており、2027 年までに 600 店舗へ拡大させる計画です。人気の要因として PB 商品やホットスナック、おにぎり、スイーツといった日本のファミリーマートを彷彿とさせる商品が豊富に取り揃えられており、日本のコンビニスタイルがマレーシア国民にも親しまれています。

マレーシアは東南アジア特有の気候から豊富な自然がありつつ、近代的な都市国家としての側面もあります。この機会にぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



<クアラルンプール・ファミリーマート>

海外事業支援部 田中

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

